

1 研究の方針

本校では、平成 25、26 年度、鳶ヶ池中学校校区で県の指定を受け「特別支援教育を柱に据えた学校づくり事業」の推進にむけて取り組みを行ってきた。そして 27、28 年度も取り組みを継続してきた。

今年度からは、高知夢いっぱいプロジェクト推進事業「夢・志を育む学級経営のための実践研究授業」の指定を 2 カ年計画で受け、特別活動に焦点を当て研究に取り組んでいくものである。

2 研究テーマ

主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成
～一人ひとりの自尊感情を育み、互いを認め合いながら
自分たちの生活をよりよいものにしていく学級集団づくり～

3 テーマ設定の理由

本校の児童は、全体的に明るく屈託がない。保育園からの関係が中学校まで続くことから、親の世代からお互いを知っており、都市部のような「希薄な人間関係」はあまり見られない。しかし一方で、児童同士の関わり合いにおいては、遊びの中でも必要以上に勝ち負けにこだわったり、些細なことからトラブルに発展したり、相手の立場を考えずに身勝手な行動をとってしまう場面が多く見られる。また、自分の感情を抑えきれずに粗暴な行動をとったり、日々の学習に向き合えなかったりする児童もいる。そうした児童の姿の背景には、厳しい家庭環境に起因する“寂しさの裏返し”としての自己アピール、自己有用感の低さ、自分の思いを上手に伝えるコミュニケーション能力の低さなど様々な要因が考えられる。

このような現状をふまえ、今年度から、高知夢いっぱいプロジェクト推進事業「夢・志を育む学級経営のための実践研究授業」の指定を 2 カ年計画で受け、特別活動に焦点を当て研究に取り組んでいく。特別活動は、望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てるとともに、自己の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養うことを目標としている教育活動である。特別活動の四つの内容、「学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事」は、教師と児童、児童相互の人間的な触れ合いを通して、助け合い、認め合い、そして自己のよさや可能性に気づき、自信をもち、これらを学級や学校生活の中でよりよく生かす場である。児童は仲間から受容され、支持されることによって、集団の中における自己の姿を客観的に理解し、自己の認識を深め、自分への自信と心理的安定感を強める。このような認め合う雰囲気の中において、児童は、それぞれ自分なりに精一杯生きたいという人間的欲求を正しく積み上げることができ、教師や児童たちとの人間的な触れ合いを通して、自発的、積極的に個性を形成し、自主性が養われていく。児童は、様々な集団活動に参加することによって、他人の立場を理解し、自己を律し、共通の目標を達成するために力を尽くすことを学ぶ。さらに、集団活動の運営について、意見を交換し、計画の実行に際して直面する困難や課題を克服するために工夫し、協力することによって、各自の役割を自覚し責任を果たすことができ、また多くの社会的知識と社会的技術を獲得することができる。児童は、このような人間関係を築きながら、「(1) 学級や学校の生活づくり」を進める中で、集団の一員としての自己の生き方についてのよりよい認識を深め、自己を生かす能力を培っていく。

今年度、研究テーマを「主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成～一人ひとりの自尊感情を育み、互いを認め合いながら自分たちの生活をよりよいものにしていく学級集団づくり～」と設定することとした。まず、特別活動の基盤となる学級活動の実践を考えていきたい。学級活動で育成した自主的、実践的な態度が、児童会、クラブ活動、学校行事に生かされていくからである。全教職員で学級活動の内容と教育的意義を確認し、目指す児童の姿、学級の姿、学校の姿の共通のゴールイメージを持つ。学級で、他者と協力して活動することの楽しさや成就感を体得するような取り組みを設定することで、一人ひとりの児童が、自己肯定感、自己有用感、学級・学校への所属感が持てるようにしたい。自己肯定感を持つことについては、確かな学力保障が必須である。そこで、これまで本校が続けてきた研究実践を学力部が引き継ぎ、基礎学力の定着と学力向上を図る取り組みを続けていく。また、人権部が行ってきた自尊感情を育むことを目指した取り組みも、本研究を支えるのに有効である。学力部、人権部の取り組みとリンクしながら活動を重ねていくことで、「学級が楽しい」「学校が楽しい」という思いを持つ児童が増えることが期待される。そうなれば、児童自らが「もっと楽しくするには」「自分にできることはなんだろう」と考えるようになるだろう。それを考える中で、仲間との助け合いが不可欠なこと、時には自分の意見が通らないこと、我慢することの大切さにも気付いていくだろう。児童の実態、思い、成長に合わせて、児童が主体的に活動し、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度が身に付くような実践を展開していきたいと考える。

4 研究仮説

特別活動の基盤となる教育活動である学級活動の時間を大切にし、実践を積み重ねていくことが、「主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成」につながるだろう。

さらに、学力部、生活部、人権部の取り組みとをリンクすることで、一人ひとりの自尊感情を育み、互いを認め合いながら自分たちの生活をよりよいものにしていく学級集団づくりができると思う。

5 研究内容

(1) 研修・研究の活性化

- ・学級運営アドバイザー（國學院大學 杉田 洋 教授）の学校訪問：年間4回
- ・児童生徒支援アドバイザー（臨床心理士）の学校訪問：年間6回

(2) 個への指導の充実

- ・「個別の指導計画」の作成、活用
- ・引き継ぎシートの作成（6年生）

(3) 確かな学力の向上

- ・日々の授業実践（ユニバーサルデザインの視点に立った授業）
- ・計算チャレンジ、ことばの時間（掃除終了後の時間）
- ・全校漢字算数一斉テスト（毎学期はじめ）
- ・漢字検定（三学期）
- ・加力指導、プラスワン学習会（毎週金曜日放課後）

(4) 環境の整備・工夫

7. 研究を支える取組

学力部

A 基礎基本の取り組み

(1) チャレンジタイム（掃除後帯タイム 13:55～14:05）

担当：

	実施日 毎週	内 容	評価目標
チャレンジタイム C 月・火・木 1・2 学期末 金 3 学期(2 月末)	月曜	言語に関する内容→視写、短作文、「ことばのきまり」などを活用。	単元（業者）テスト <u>国語言語</u> ・ <u>算数技能</u> の観点で 80点以上の児童の割合を 80%以上とする。
	火・木曜	各学年に応じた算数に関する学習内容※火曜日に関しては言語の内容を実施してもよい)	
	金曜	学年末把握（四則計算） 	・5分以内にできる目標 100% ・5分以内かつ正答率80点以上の児童の割合を80%以上とする。

※学年末把握 毎回時間を計る。児童自身で伸びが見られるような（意欲につながる）配慮が必要。

内 容		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
	たし算	繰り上がり 50 問	繰り上がり 100 問	繰り上がり 100 問			
	ひき算	繰り下がり 50 問	繰り下がり 100 問	繰り下がり 100 問	繰り下がり 100 問	繰り下がり 100 問	
	かけ算		九九 81 問	九九 81 問	九九 81 問	九九 81 問	九九 81 問
				穴あき 50 問	穴あき 50 問	穴あき 50 問	穴あき 50 問
	わり算			□□÷△=○… ☆ 30 問	□□÷△=○… ☆ 40 問	□□÷△=○… ☆ 50 問	□□÷△=○… ☆ 50 問
					□□□÷△△=あまりあり 10 問	□□□÷△△=あまりあり 10 問	□□□÷△△=あまりあり 10 問

学校で統一したプリントが印刷室の棚に入っています。

(2) 一斉テスト ※年度当初購入するテストを全学年で統一する（まとめあり）別紙提案

担当：

全校漢字一斉 テスト C：学期末 ↓ 次学期始め	学期はじめに全校一斉に漢字テストに取り組む。 業者テストの学期の漢字のまとめを使用する。 D：学期末→次学期始め チャレンジタイム～5 校時に行う。 4 月：前年度分の読み書きテスト 9 月：1 学期分 1 月：2 学期分 ※1 年生はひらがな ※1 年生はカタカナ	各学期90点以上の児童の割合を90%以上とする。
全校算数一斉 テスト C：学期末 ↓ 次学期始め	学期末まとめテスト（算数）の実施 学期末に行ったテストを夏季・冬季・春季休業日明けに再度実施し、定着を図る。 D：学期末→次学期始め 学期2日目の2校時に行う。	各学期80点以上の児童の割合を80%以上とする。

(3) 漢字検定⇒ 学年の配当漢字については、2 学期末までに終わらせる。
年度当初漢字ドリルは 2 学期制を購入する。

担当：

長岡小学校 漢字検定 C：検定後	D：児童の幅広い漢字力向上を図る。2 月実施。 特に①訓・音読み ②部首 ③熟語理解 ④対義語・類義語 ⑤同音・同訓異字	正答数70%以上（認定証） の割合を各クラス90%以上とする。※入力については個人ではなく学級全体の数値を入れる。
------------------------	--	--

【入力先】

0. 教員の方は主にこちらへ！！ ▶ 2. 研究部 ▶ H29 ▶ 学力部 ▶ 漢字検定 ▶ H29

各学年問題用紙
各学年練習プリント
模擬テスト

漢字検定集計.xlsx

	漢字検定			基礎基本	
	1年1組	1年2組	2年1組	3年1組	3年2組
検定受講児童数					
70%以上の児童数					
	#DIV/0!	#####	#####	#####	#####

数値を入力
します。

B 家庭学習 ⇒ 家庭学習の手引き4月配布

担当：

家庭学習 C：1・2 学期末	D：どの学級も次の3つを毎日の宿題で必ず出す。 ・漢字練習 ・計算練習 ・本読み 各学年×10分を目安の時間とする。ただし、特に高学年等、塾やくもん等、学習に関する場での時間も含めることとする。	「のびゆく記録」で、「家庭学習」の項目で、「できた」の評価を付けた児童の割合が80%以上であったか。
	D：4月の学年懇談や、地区懇談会でも保護者に周知する。	
	D：毎学期、家庭学習（①の家庭学習や自主勉強）のお手本になる児童のノート等、頑張りノートとして全校の中で評価する。 掲示場所は、各学年の掲示板の一部を工夫して当てることとする。 各学級1名以上評価する。	毎学期1回（めあす6月・11月・2月）校内掲示で評価できたか。

【入力先】 0. 教員の方は主にこちらへ！！ ▶ 2. 研究部 ▶ H29 ▶ 学力部 ▶ C家庭学習 ▶ H29

①家庭学習の定着に関して
C：「のびゆく記録」の「家庭学習」の項目で、「でき

H29家庭学習定着度.xlsx

	1年1組	1年2組	2年1組
1学期			
2学期			

数値を入力
します。

C 表現力の育成

担当：

話すこと 聞くこと C：検討していく	D：教室に掲示している「お話名人」「聞き名人」を意識した取り組みを行う（日々の取り組み）。 結論先行一理由づけ（ナンバリングやラベリング）を用いた書く・話すの取り組みを行う。 ※特別活動の研究に関連して話型作成が必要。	新たな話型作成に伴って、評価目標を同時に検討していく。
-----------------------------------	--	------------------------------------

D 読書旬間（週間）、辞書引き大会

担当：

読書旬間 C：123 学期ごと	D：学期に一回ずつ5日間学年に応じた目標冊数、ページを設定して読書活動に取り組む。	学年ごとの達成率を超えたかどうか。
辞書引き大会 C：大会後	D：3年生以上全校一斉に行う。2月に実施する。	個人目標を設定し意欲面と技能面から評価する。

言葉の森へ出発！ほくらは辞書引き探検隊

目的

①辞書に親しみ、言葉の意味を自主的に調べようとする意欲につなげる。

②辞書の引き方を復習して数多くの言葉を引くことができる。

＊ユニバーサルの立場から

支援が必要な児童には、辞書引きの手引きをわたし、1・2年生や7年組の先生が支援にあたる。

対象

3．4．5．6年生児童

詳しい時間設定

15：00～15：10 オリエンテーリング（多目的ホール）
15：10～15：20 言葉集め（各会場）
15：25～15：40 集合 辞書引き（各自の教室）

手順

② 各教室にそれぞれのテーマを設ける。

③ （教師が）そのテーマに合った言葉カードを教室のあちこちに貼る。（10枚）

④ 児童は、10分間でその言葉カードを見つけ、選びながらワークシートに書き込んでいく。（一つの会場で選べるのは5つ。）

⑤ 教室に戻り、選んだ言葉を辞書引きする。ワークシートに書き込む。（ページ数と段）

⑥ 合図で終了。

⑥ラッキーワードの発表を放送で行う。

☆校長先生が、あらかじめ選んだ言葉を探していた人にミニ賞状贈呈

ラッキーワード8枚のうち
3つ自分の見つけた言葉が入っていることが条件。